

## 第2回栗東市観光振興会議 会議録

- 日時： 令和5年10月4日（水） 午後1時30分～午後3時15分
- 場所： 栗東市本庁舎2階 第2会議室
- 出席： 《委員》  
築地達郎会長、田中由美副会長、林優里委員、濱田康之委員、  
鶴田泰伸委員、高野秀樹委員、北川寛人委員  
《オブザーバー・運営組織》  
一般社団法人栗東市観光協会 山口事務局長  
《事務局》  
環境経済部 高田部長、商工観光労政課 川津課長、商工観光労政課観光係  
事務局担当者

### 1. 開会

（商工観光労政課長）

### 2. 市民憲章の唱和

（商工観光労政課長）

### 3. あいさつ

築地会長あいさつ（省略）

### 4. 報告事項

#### ① 今年度の取り組み方針に関する実施状況について【資料1】

○資料1について事務局説明（省略）

会 長） 審議に入る。報告内容について質問、意見等はあるか。

委 員） 8月末の実績値の記載があるが、前年同時期対比ではないので順調か判断しかねる。うまくいっているものとうまくいっていないものを教えてほしい。

事 務 局） SNS など情報拡散や広報体制の強化は順調だ。懸念しているのは、旧和中散本舗の特別公開で、春・500名秋・272名で今年度合計772名であり、昨年は春438名秋508名の1,100名と比較して減少した。開催時期の関係で他のコンテンツに分散したのか分析して次回に報告する。その他は概ね施策は順調に推移している。

- 委 員) 今年の秋は NHK などの取材放映がなく、その影響も考えられる。
- 委 員) こんぜめぐりちゃんバスの利用者が減っているが、利用者減で継続できないと困る。利用者数だけで判断しないでほしい。
- 運営組織) 春のめぐりちゃんバスの利用者数は昨年度対比 103%で減っていないはずだが、確認します。
- 会 長) めぐりちゃんバスの利用者数は置いておき、特にご意見がないようなので実施状況の報告は了承する。それでは、協議事項(1) 栗東市観光ニーズ調査について事務局から説明ください。

## 5. 協議事項

### ① 栗東市観光ニーズ調査(案)について【資料2】

○資料2について事務局説明(省略)

- 会 長) 説明のあった調査が第2期栗東市観光振興ビジョンの土台となるが、本件について質問、意見はあるか。協議事項としては、提案のあった調査について承認するかどうかとなる。
- 委 員) 安養寺、治田地区がないが調査地点として空白でよいのか
- 事務局) 観光施設としての集客場所がないので、入れなかった。
- 委 員) 自然観察の森、観光者数は少ないが下戸山の小槻大社などがあるが。
- 会 長) 調査地点にその他を入れて、追加検討してはどうか。
- 事務局) 学区を明記しているが、明記しない方法もあり、追加検討する。
- 委 員) 市役所でヒアリングしても良いのでは。外国人にもできる。市内全般から来られるからいろんな意見が聞けるのでは。
- 委 員) あくまで観光のニーズ調査だから、市内どこかに観光に来られた方に聞くべきだ。

事務局) 市役所へお越しの方は動機が異なるので、観光地でのヒアリングとしたい。

会長) 市内在住者に本市観光に関心を持ってもらい、帰属意識の醸成も観光振興ビジョンに書き込まれており、あってよいが、本調査は観光目的の方が対象となる。また広報的な意味もある。産業観光調査も別途行うと聞いている。協議事項としては、調査地点を工夫して別にその他の項を入れて了承とする。いかがか。

委員) 先日、栗東市の施設を利用した際に利用時間内なのにスタッフが来て早く退出してくれと言われた。会議をしている目の前で。指定管理者として運営に問題で苦言がある。利用者は「スタッフは早く帰りたいから利用時間が来ていないのに退出を求めたのか」と考える。観光・サービスを進める栗東市の施設としていかがか。観光振興を推進する施設なのに運営上ふさわしいのか。

会長) 貴重な指摘だ。協議事項の3のその他で事務局にこうしたことの改善を要望したい。

委員) 外国人へのヒアリングは多言語化して予定しているか

事務局) 予定していない。

委員) たとえば、金勝寺に来られた方がどこの観光地から来られて、これからどこの観光地に行かれるのか設問事項に入れて分析できれば、いろいろ活用できるのでは。

会長) A42ページに収めて聞き取りするので難しいと思うが工夫は必要だ。地点や設問内容を工夫していただくことでアンケート案は了承とする。改善した結果は後日報告していただくとして、事務局に一任とする。

事務局) いただいた意見を修正に反映させるが、すべてではないことは理解していただきたい。めぐりちゃんバスの春の利用者数は393名でしたので264名から修正ください。前年より減っていない。

会 長) めぐりちゃんバスの運行会社は帝産湖南交通と聞くと、運転手の確保が深刻とか、本数の削減など情報はなにか。

委 員) 本数の削減は聞いていない。運転手の募集は継続していると聞く。

会 長) それでは、協議事項(2)の次年度の主な事業計画(案)について事務局から説明下さい。

## ② 次年度の主な事業計画(案)について【資料3】

資料3について事務局説明(省略)

会 長) AからDの4つの提案だが、一つずつ協議していく。その前に全体として何かあるか。

委 員) 4つの提案それぞれの予算額算定の基礎とその効果額は何ですか。

事 務 局) Dであれば、参考は東近江市の聖徳太子魅力発信補助事業で30万円の補助額だ。50万円の補助額であれば、半分の補助なので100万円の事業が展開される効果。Cはバス10台分(50人/台)の補助額で、一般論として、宿泊で1万円/人、食事で5千円/人の効果と考え、総額で上限750万円の効果を見込む。Bの費用は3ヶ年で最低1,150万円だが、当面のシステム構築費用で維持管理などは入っていない。Aは、経済効果というより「馬のまち栗東」のイメージアップ優先を考えており、費用対効果は測りづらい。

委 員) 予算づくりでは綿密な積算が必要で効果も明確にする必要がある。

委 員) 観光入込客数の調査で協力いただいている。AからDの施策は新規ですか。新規なら今までの施策の内、どれを削減するのか。

事 務 局) 今までの事業にこれらを上乗せしていく考え方だ。

委 員) 新規事業ということだが、引退馬とのふれあいの取り組み事業は観光協会がすでに取り組んでいる事業だ。栗東トレセンもあくまで競走馬の調教施設との考えであり、観光方面での協力がいただけないのが実

情だ。

委 員) 今までの事業に上乗せでこれらの事業を進めるとなれば。誰が責任をもって推進するのか。担当体制、人員配置をどう考えているのか

事 務 局) 窓口、責任者は係長である。係員 2 名もプランニングに関わっており、それぞれ担当として事業を推進する予定だ。

委 員) どれだけの効果・見込みがあり、実現性があるのか不安だ

事 務 局) 4 事業で一部重複もあり、また協力いただけるかなど難しい課題もあるが、新たな取り組みをしていくと理解いただきたい。進めていく上では、指摘いただいた有効性、実効性について、資料等を事前に準備して説明していくことになる。最終的には 1 事業となる場合もある。今回は委員各位に事務局サイドから素案を提案してご意見をいただきながら絞り込み、実現性を高めていくと理解ください。予算も立案段階で実現の可能性もこれからであることから、確約できるものでない。新たな試みをしていく事務局案と捉えていただきたい。

会 長) これから財政当局との折衝が始まる段階であり、委員の意見も全体として実現できるようにマネジメントしてくださいという意味と理解する。それでは、個別に検討する。A から一つ一つ提案のあった事業への意見を求める。さきほどの指摘は運営体制、だれが主体でどこに頼み進めるのか。現状決まっていること、わからないことをはっきりさせてということ思うが。

事 務 局) 観光協会が行っている事業・企画と重複する指摘は、セラピー・ヨガのイベントか。

運営組織) フォトコンテスト 30 周年で「馬をうまく撮る」企画を昨年実施して 13 名の参加があり好評で、エサやり、乗馬などイベントを実施した。有償として販売している内容の企画をモニターツアーで市がやるとなると協会としては心苦しい。

事 務 局) 本市では「健康運動公園の構想」があり、その中に公園内で引退馬の受け入れ施設を設ける予定がある。庁内関係部局との調整をした上で

観光協会と重複しないように進めていきたい。「馬を活かしたまちづくり会議」があり、イメージアップでどういうことをするかなど関係部局をまたがってやる企画はそこで決め込んでいく。そこで観光担当部署としてこの企画を提示している。観光協会と事業が重複することは避けるべく調整はする。

委 員) Aに限らず、重複する部分は避け、どこが責任を持ち進めるのか協会もマンパワーが限られているのでしっかり調整してください。

事 務 局) 市長も本市のストロングポイントは馬であり、「馬を活用したまちづくり」を推進していく考えだ。本市の優れている部分を周知、広めていくことも観光の仕事と考える。

会 長) 観光振興会議の会議体としての基本的な考え方として、民間のやることは民間が、役所がやることは役所がやる。この線引きは厳格にしていこうとしており、この整理は都度する。事務局からの答弁を聞いていると庁内の調整が大変でそちらに気を取られているのかなと感じた。さきほどの委員からは観光協会とコミュニケーションを取ってとの指摘。若い職員にはマインドとして外向きで踏み込んでいってほしい。この企画事業については、観光協会・トレセンなどと調整して、市は行政でないとできないことをするべきだ。次にBの議論に入る。

委 員) 観光も客観的に外部の専門機関に見てもらう、この提案の調査は対象など決めつけしないで進めていく。思わぬニーズにあたることもある。

委 員) 金勝山ハイキングが先日日経新聞に掲載された手近なご当地アルプスで全国3位となったが、この企画はHPで発信する考えか。

事 務 局) 例えば、アマゾン进行を思い浮かべてください。部屋をリメイクする場合それに関連する物がたくさん並んでいる。カーテンはこれで、ソファはこれだと探して選んでいく。ハイキングであれば、交通手段は、お弁当は、半日で終わればその後どうしようかなと。そんな情報がフルラインで載っており、クリックして選び、決めていくイメージだ。パソコンの前で完結できるイメージだ。

委 員) HPで運用維持していくなら、広告収入が必要となる。

事務局) 枠組みを作り終え、そうした収入、お金を稼ぐ段階で役所の手から離れる。その意味でこういった企業体に手渡していくかも課題だ。

委員) この資料に記載の困りごとはもっともで、実情を捉えて解決してほしい。特に交通手段は整備してほしい。

会長) 期待の声だ。一委員として指摘する。Bの中身、資料3-3はビジネスそのものだ。マーケティング・プロモーション活動はこの会議体での議論では役所が立ち上げるのではなく、観光協会がすることだ。マーケティングや観光需要の創出がそうだ。それは協会に委ねて、自在に開発する。しかし短いサイクルでやらねばと思う。提案内容はよいが、問題意識を共有して取り組みは観光協会が進めるように一元化すべきだ。

事務局) 枠組みを事務局で作る運営は民間と考え、どこかで手放す予定だ。

会長) 役所・行政の役目は民間が作り上げたそうした枠組みをオーソライズする、裏書き承認することだ。民間のこれは間違いなく、ちゃんとしたところであると承認を与える役目だ。10年以上前に高島市が市のトップページに民間のHPをリンクさせて貼り付けた。高島市は地元のメディアが少なく、広報戦略として取り上げた。そのようにお墨付きを与えるのが役所の役目だ。子育て支援の部局の人のコメントが載る。そんなコーディネートをするべきだ。

運営組織) この取り組みは、びわこビジターズビューローで既に実施されている。宿泊やイベントの予約をやられている。料金の決済までとなると旅行業の免許登録がいると思う。現状はどういう状況か。

委員) 代金の決済まですると旅行業の免許登録がいるはず。当会は県下の市町の観光協会の代用の事務局のイメージでイベントの斡旋をしている。法令については確認が必要である。

運営組織) 宿泊サイトの予約、シガリズムトリップでの斡旋の状況はどうか。

委員) 市町のイベントは第3者を經由して斡旋している。宿泊予約は、宿泊のOTAのサイトを掲載させているだけだ。掲載手数料は頂くが。

委 員) B の提案はどこが担うかは置いておき、B の企画・内容で、市内の商工業者が観光分野に参入する期待値があるかもしれないので、初年度記載のカスタマーニーズを把握する調査はしても良いではないか。幹旋ではなく、第 3 者のサイトの掲載であれば免許も必要なくその業者が決裁して利用者にとって手軽るなどメリットがあればよいのでは。掲載から決済まで一元化したほうが利用者のメリットがあれば免許登録業者がすればよい。こういったニーズがあるか調査は進めたらどうか。その結果、次に進めず立ち消えもあると思う。本市単独では無理で県や湖南 4 市でとかプラットフォームの構築のやり直しもある。

会 長) 3 の 3 の資料では来年度の事業予算 600 万円となっているが、これだけの経費をかけて、作って終わりといった形にはならないようにしていただきたい。本事業についてはもう少し精査し、再度提案いただくという形でよろしいか。

事 務 局) 一社だけの提案なので他社にも広げたら金額も変わってくる。調査だけを次年度に行うのであれば次年度予算も抑えられる。

運営組織) 資料 2 の観光ニーズ調査とこの調査との違いは何か

事 務 局) 後者の調査の 250 万円はホームページの組み立て・方向性の調査で、前者はビジョン策定の調査で本市全体のニーズ調査だ。

会 長) 前者はマーケット（市場）調査で、後者はマーケティング調査（どういう需要を開発できるのか）の理解でどうか。

会 長) 栗東市の観光ホームページ（観光協会）があるのであれば、それとの整合性、すみ分けはどうするのかとの問題もあり、この会議の中では判断できない。日程上、予算との絡みであれば、この間の議論を踏まえ担当部局で責任ある対応をしていただき、振興会議に報告いただく。協議事項であり審議事項でないので議決は必要ないとの整理をした上で個別協議をしたとする。次に C の協議に入る。

会 長) 市場原理だけでは動かない事項に行政が補助金を出して動かすということだが何かあるか。

委 員) 団体 10 名以上に絞ったのはなぜか

事 務 局) ニーズ調査の対象を 10 名以上の団体としており、またホテルへのヒアリングからも把握したいとの考えだ。

委 員) 10 名以上の団体で泊まる方がどれだけいらっしゃるのか。実績、実態把握を積み重ねていくのであれば、バスでの日帰りツアーでのバス代補助、市外に泊まるが本市で食事した、観光施設に滞在したことも取り込めば、実数はより広くつかめると思う。

会 長) 他の委員も言われたが、市内宿泊にこだわらなく良いのでは。今出た議論を踏まえ、現実味ある内容とされたい。最後に D の協議をする。資料記載の③は②に含まれると思う。

事 務 局) 了解した。②を削除して③を②とする。

委 員) 馬のまちについて魅力を発信する事業であれば、それをアピールする場所はどこか。そこに行ってもらい議論をしなくてはならないが、どこが対象の施設なのか。運動公園の姿が見えない中で時期尚早ではないか。馬に関する物産だけに絞ってしまうほうが良い。そうしなければ、この補助金事業に意味がなく、ぼやけた補助金事業となる。

会 長) ①記載の来訪者受け入れの施設はどこか。

事 務 局) 乗馬クラブの施設となり、そこでのイベントを考えている。

会 長) 物産に絞ったほうが良いのではとの意見があったと記録する。

委 員) 馬のまちの魅力を発信する事業、競走馬に関する事業を強力に推進してほしい。競走馬を観光に絡めた事業は北海道ぐらいなので、施設がなくても、武豊氏、ルメール氏を観光協会の観光大使、観光振興会議の名誉会員になってもらうなどして推進する。そうすれば 500 万人いる競馬のネット会員の何割でも栗東市に関心を持ち、来訪してくれればよい。来てくれなくともフォロワーになってもらう。効果大だ。美浦はトレセンでの調教ツアーをやっている。施設見学も定期的にやっている。栗東トレセンにも観光へ協力してもらえよう粘り強く交

渉してほしい。競馬コンテンツを差別化として強力に進めてほしい。

会 長) 協議事項 A～D 個別提案に対する意見が出たので、事務局はこれらを踏まえて来年度予算の策定に取り込んでもらいたい。市の観光施設での指定管理者の運営の中身については別の機会に取り上げていく。予定時間を超えたので協議事項は終了として進行を事務局にお返しする。

事 務 局) 会長、会議の進行ありがとうございました。委員の皆様には大変貴重な意見ありがとうございました。議論を踏まえ整理をし、次回会議で報告させていただく。閉会にあたりまして田中副会長にご挨拶をお願いします。

## 6. 閉会

(田中副会長) 省略